

感想



藤田始史 さん

左京区在住。
たまに農家。たまに大工。ほか色々。
和束で古民家改修。



京都府南部に位置する和束町は、人口 4000 人強の宇治茶の主産地として知られる小さな町である。

京都府景観資産の第 1 号にも選ばれた茶畑の風景や、名産の宇治茶（「和束茶」）などで知られている。

この町を初めて訪れた時に、その景観とお茶の美味しさの虜になり、和束に何度も出入りするようになった。

知人がこの地域で茶業を営んでいたために、収穫の繁忙期には手伝いをしたり、和束で空き家を借りてこの地域に実際に居住していたこともある。その縁で、今回の調査でこの町を取り上げることとなった。

現在和束町は、全国の農村部で見られるように人口の流出、少子高齢化による担い手不足、過疎化が大きな町の課題となっている。

だが、今回の調査で色々な方に話を伺ったり、自身が個人的に話を伺った範囲では、和束町では新規就農や I ターン者の受け入れと行った取り組みに対し、積極的であるとは言いがたい状況であった。

町長が「新規就農者を募集する」と言いながら、それを聞いた方が役場に電話をした所「そんなことはしておりません」と返答されたという話を伺った。役場の人の動きが遅い、あるいは、農家が積極的に自分たちで解決しようとしていることに対し邪魔をする、非協力的であるという農家の方が多数おられた。

実際に、今回話聞いた新規就農者の方(お会いすることが出来なかったが)は、個人的に茶農家の方のHPを見て、コンタクトをとってそこでバイトをされながら独立された方であった。

また、若手の茶農家の方で、インターンやバイトを招き入れ若い人を集めて集団で農業を営むグループもおられた。

子育て支援などの補助制度もなく、インターン者が隣接自治体の南山城村や笠置町に流れている状況である。

和東町の各集落の間でも温度差があり、比較的裕福な地域、そうでない地域があり、また、ヨソものに対し、比較的寛容な地域、そうでない地域があるようである。「あの地域では、ヨソものに畑を貸さない」等の話を耳にした。

そのような状況の中で、昨年秋に、町主催のワークショップ「わづか まちづくりびと 井戸端会議」が行われ、ようやく地域の課題に対する取り組みがスタートした。

また、和東の空き家をみんなでボランティアで改修して、地域の拠点などに有効活用しようとするグループもでてきている。

そのような中で、地域の農家の方、空き家を改修している団体とが協力して、「和東の空き家を考える会」が今年の始めに立ち上がった。これは、空き家を活用して、地域外の方に来ていただく取り組みである。



現在の和束は、行政、地元の方が、危機感を持ってこのままでは行けないと動き始めたところである。私自身も和束で行っている取り組みに対し、協力していくつもりである。

和束町は、茶源郷と言っている。ひとたび訪れた人の心を打つ魅力を持ち町であると私自身も思っている。今後の和束町に期待して頂きたい。

